

【飼育調教】「10分間、絶対に声を出すな」教授の理不尽な救済 ～抗えないソファの上で犯される飼育の始まり～

サンプル（一部抜粋）

「単刀直入にはっきりと言おうか。
君、留年ね。」

「...毎日熱心に研究室に来ていたのにね。
肝心な所で君はいつも失敗するね。」

「...だが、どうしてもと言うのであれば助け船を出してやらない事もない。」

「...なんでもします、か。
いいだろう。」

「...では...ゲームでもしょうか。
今から僕が何をしようと...声を出してはならない。」

「制限時間は10分。何をされても...だ。」

「ではまず、準備として服を脱ぎなさい。」

「（くすっと笑う）...息が漏れたな。
その吐息が声になった瞬間、君の留年は確定だ。」

「いいね？
もっと必死で耐える事だな。」

「...まだ4分しか経っていないが。
あと6分。せいぜい頑張rinaさい。」

「...残り1分か。
...あともう少しで君の未来が決まるんだよ。」

（中に指を2本入れ、激しいグチュグチュ音）

「...そしてその未来を...僕が奪うんだ。」

（ジュルジュルと激しく舐めながら、Gスポットを挟む音）

「（楽しそうに笑う）ああ、もうイきそうなのか。
せっかくだし、時間内にイかせてあげようか。」

（全容は製品版にて）